

新カリキュラム 「人間のライフスパンと生活行動実習1」 「地域包括ケア実習1」「地域包括ケア実習2」の 取り組みと今後の課題

鯉坂 由紀*

Key words : 新カリキュラム、臨地実習、1年次学生

I. はじめに

2022年度からスタートした本学の新たなカリキュラムでは、「あらゆる場で、あらゆるライフスパンにあり、あらゆる健康状態の人々と出会い、看護固有の価値を基盤に、切れ目ない看護を提供できる看護職者の育成」を指向し、臨地実習を編成した。本稿では、1年次に履修する「人間のライフスパンと生活行動実習1」「地域包括ケア実習1」「地域包括ケア実習2」の取り組みと今後の課題について報告する。

II. 実習の概要

「人間のライフスパンと生活行動実習1」「地域包括ケア実習1」「地域包括ケア実習2」は、指定規則に示された「地域・在宅看護論」2単位及び養成施設が独自に設定できる6単位の内の1単位をあてて配置した実習である。「人間のライフスパンと生活行動実習1」は「人間と生活行動1」「生活行動逸脱看護1」「生活行動看護演習1」を

踏まえた実習内容である。「地域包括ケア実習1」は地域包括ケア論と、「地域包括ケア実習2」は地域包括ケア論演習を踏まえた実習として構築している。実習概要は表1、2、3の通りである。

III. 実習の実際

1. 人間のライフスパンと生活行動実習1

5つの中核病院を各拠点として、19グループ編成で実施した。

1) 病院オリエンテーション／外来でのコミュニケーション

実習1日目の病院オリエンテーションでは、各病院の看護部長および教育担当者、外来師長から、病院の概要・理念、地域医療における病院の位置づけ、看護方針、外来診療科とその特徴、利用する方の傾向などの説明を受けた。また、実際に実習を行う外来を始め、病院の環境を見学する機会を得た。実習2、3日目は、各病院の外来において、様々なライフスパンにある人々にインタビューを行い人々の健康に対する考えと行動について理解を深めた。このインタビューでは、学生は、基礎ゼミ1の接遇マナー講座で学修した身だ

* 京都看護大学

しなみや言葉遣いなどを踏まえて実習開始前にインタビューガイドを作成し、挨拶や聴く姿勢などのコミュニケーションの基本を学修したうえで看護学生として初めてのコミュニケーションを試みた。インタビューは「病院の外来に来られたのはどのような理由ですか」「どのような交通手段で来られたのですか」「日頃から健康について気をつけていること、意識していること、生活習慣として行動していることはどのようなことですか」などである。このプログラムは人々の具体的な暮らしを学生が想像することを意図したものであ

る。インタビュー対象者の選定は、実習担当看護師や外来看護師が、外来診療や検査を待っている方の中から選定し、実習目的を説明し同意を得て行った。実施場所は、外来の混雑状況を見ながら、周囲にあまり人がおらず落ち着いて話すことができ、対象者の診療予定の妨げにならないよう看護師によって調整された。外来でのコミュニケーションは、およそ1時間ごとに学生が入れ替わるローテーション制としたが、コミュニケーションの最中に検査の順番が回ってきた場合には、対象者に了承を得て検査後に継続するなど状況に応じて対

表1. 人間のライフスパンと生活行動実習1の概要

授業科目		開講期	単位数(時間数)		必修・選択
人間のライフスパンと生活行動実習1		1年次前期(第2ターム)	1(30)		必修
概要	医療機関の外来を利用する様々なライフスパンにある人々とのコミュニケーションを通して、人々がどのような健康に対する考えを持ち、どのような環境でどのように暮らしを営んでいるのかについて知り、看護の対象を生活者として理解する。				
到達目標	1. 医療機関の外来を利用する様々なライフスパンにある人々とコミュニケーションを図ることができる 1) 看護の対象を述べるができる 2) 対象者の状態、状況に応じて様々なコミュニケーションを試みるができる 2. 様々なライフスパンにある人々の健康のニーズと対処行動について説明することができる 1) 様々なライフスパンにある人々の健康のニーズについて述べるができる 2) 様々なライフスパンにある人々の健康のニーズへの対処行動について述べるができる 3. 医療機関周辺地域を探索して環境を把握し、様々なライフスパンにある人々が健康の保持・増進、疾病予防のために、どのように暮らしを工夫しているのかについて説明することができる 1) 医療機関周辺地域の環境の特徴について述べるができる 2) 医療機関周辺地域の人々のライフスパンの特徴について述べるができる 3) 医療機関周辺地域の人々の暮らしと健康のニーズについて述べるができる 4) 様々なライフスパンにある人々の暮らしや健康と関連付けて説明することができる				
DPとの対応	智をいづくしむ力		人をいづくしむ力		命をいづくしむ力
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護 ○
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践 ○
実習オリエンテーション(実習委員会)	5/18(水)	実習要綱に基づき、臨地実習教育理念、臨地実習方法、人権の尊重の徹底(個人情報)の保全、守秘義務)の説明			
実習前オリエンテーション1	6/1(水)	実習概要の説明、準備するものの説明、各実習病院のガイドラインの確認と誓約書の作成			
課題提示	6/8(水)	事前課題:地域探索計画書の作成、インタビューガイド作成の提示			
実習前オリエンテーション2	6/13(月)	実習記録用紙の説明、インタビューガイドの内容確認とインタビューの練習			
実習内容	6/20(月)	午前:実習オリエンテーション(学内)、午後:病院オリエンテーション(臨地)			
	6/21(火)	外来での実習(臨地)			
	6/22(水)	外来での実習(臨地)			
	6/23(木)	午前:地域探索、午後:地域探索結果の共有・発表会の準備(学内)			
	6/24(金)	午前:発表会(学内)、午後:面談・記録の整理			

応した。外来での実習以外の学生は、インタビューを通して理解した人々の暮らしについて整理し、また、より具体的かつ効果的なインタビュー方法を検討した。

2) 振り返り

外来での実習終了後、およそ30分間の振り返りの時間を設けた。この振り返りは、初めての臨地実習を経験した学生が実習目標に沿いながら感じ考えたことを表現し共有して疑問を解決することをねらいとし、カンファレンスではなく振り返りと位置づけている。振り返りのテーマは事前に学生が教員と相談して設定し、司会進行は、今後の実習カンファレンスのイメージ化につなげるために進め方の意図を学生に説明しながら教員が行った。振り返りの主なテーマは、「外来を利用する様々なライフスパンにある人々の健康に対する考えと行動について理解したこと」「様々なライフスパンにある人々とのコミュニケーションを通して感じ考えたこと」である。看護部長や外来看護師の振り返りへの参加によって、学生の発表内容に対する助言や確認の質問、また学生の視野を拓ける助言の機会を得た。

3) 地域探索

実習4日目は、人々がどのような地域でどのように暮らしているのかを理解することをねらいとし、中核病院周辺地域を探索した。外来でのコミュニケーション内容と関連づけ、交通事情と交通機関、家屋や街並み、人々が集う場所、街を歩く人々の様子、地域の活気、地域のサークル活動を視点に探索した。地域探索を行うにあたり、学生は実習前に中核病院周辺地域の人口動態、自然・物理・文化的環境について個人ワークとグループワークを行い、探索する場所や経路を記した地域探索計画を立案している。地域探索後はマップを作成し、地域の特性と地域で生活する人々の暮らしの多様性を理解した。

4) 全体共有（発表会）

実習5日目は、4日間の学びを共有する発表会を行った。発表内容は、地域における各病院の位置づけ、地域の特性、外来を利用する方の健康ニーズと対処行動、看護の対象である。外来でのコミュニケーションと地域探索を通して、学生は、看護の対象が地域で暮らす生活者であることの理解を深めた。

2. 地域包括ケア実習1

人間のライフスパンと生活行動実習1と同じ5つの中核病院を各拠点として、19グループ編成で実施した。

1) 病院オリエンテーション／地域連携・入退院支援部署での支援の見学

実習1日目の病院オリエンテーションでは、各病院の地域医療連携部部長や入退院支援センター課長から、地域連携・入退院支援部署（地域医療連携室、患者支援センター、医療福祉相談室など病院により異なる）の目的、機能、役割、看護師の役割について説明を受けた。実習2～3日目は、地域医療連携室、患者支援センター、医療福祉相談室などの各部署で支援の場に参加し、対象者のライフスパン、健康状態、状況に応じた地域との生活をつなぐ支援の実際を学んだ。この実習は、地域での暮らしから入院加療への移行においてどのような支援が行われるのか、また、地域での暮らしに移行する支援はどのように行われるのかを理解することをねらいとしている。参加可能な支援の場の選定や学生が同席することの対象者への説明と同意は、各部署の担当者が調整した。学生は、支援に支障がなく、かつ学習が深まる環境で実習をすることができた。

また、医療ソーシャルワーカーの講話の聴講、病棟での退院支援カンファレンスへの同席を体験し、各専門職の役割や退院支援カンファレンスの目的、病棟看護師、退院調整部門看護師、主治医、栄養士、薬剤師などの多職種が関与して退院を支

援する実際に学ぶ機会を得た。

各部署での実習は、およそ1時間ごとに学生が入れ替わるローテーション制とし、地域連携・入退院支援部署での実習以外の学生は、入院時と退院時の支援の実際について整理し理解を深めた。

2) 振り返り

各部署での実習終了後、およそ30分間の振り返りの時間を設けた。振り返りの主なテーマは、「入退院支援の場に参加して理解した対象者の特徴に応じた支援」「看護師の役割と他職種との違い」などである。司会進行は、実習2日目は教員が行ったが、3日目は教員の支援を受けながら学生が行うよう段階的に学生に移行した。振り返りに参加した退院調整支援部門の看護師や病棟看護師より、学生の発表に対する助言や各職種の視点、意図などの補足説明がなされた。

3) 地域探索

実習4日目は、医療・保健・福祉に関わる機関に焦点をあて、中核病院周辺地域を探索した。地域探索を行うにあたり、学生は、実習前に中核病院周辺地域に存在する医療・保健・福祉に関わる機関の種類と機能について個人ワークとグループワークを行い、探索する場所や経路を記した地域探索計画を立案している。地域探索後は、マップを作成し、地域のシステムの理解を深めた。

4) 全体共有（発表会）

実習5日目は、4日間の学びを共有する発表会を行った。発表内容は、地域連携・入退院支援部署で学んだ対象者の特徴に応じた支援、退院支援カンファレンスの同席を通して学んだ多職種の連携の実際などである。地域連携・入退院支援部署と地域探索を通して、学生は、地域包括ケアシステムの一端の学修をすることができた。

表2. 地域包括ケア実習1の概要

授業科目	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
地域包括ケア実習1	1年次前期(第2ターム)	1(30)	必修
概要	地域中核病院の地域連携・入退院支援部署を拠点とし、医療、保健、福祉に関わるどのような機関が設置されているかに焦点をあてて、人々の生活圏内において地域探索を行う。そして、地域で暮らす様々なライフスパンにある人々のための地域包括ケアシステムを理解する。		
到達目標	1. 地域中核病院における地域連携・入退院支援部署の目的、機能、役割について説明することができる 1) 地域連携・入退院支援部署の目的、機能、役割について述べる 2) 入退院支援の場に参加し、対象者の特徴(対象者のライフスパン、状態、状況)について述べる 3) 入退院支援の場に参加し、地域で生活するための、対象者の特徴に応じた支援について述べる 2. 地域中核病院周辺地域を探索して、地域に存在する医療・保健・福祉に関わる機関を把握することができる 1) 地域中核病院周辺地域を探索し、地域に存在する医療・保健・福祉に関わる機関の種類と機能について述べる 3. 様々なライフスパンにある人々のための地域包括ケアシステムについて説明することができる 1) 様々なライフスパンにある人々のための地域包括ケアシステムについて述べる		
DPとの対応	智をいっくしむ力	人をいっくしむ力	命をいっくしむ力
	科学的論理的思考力	全人的人間理解	職業倫理と人権擁護
	探求力と生涯学習能力	ケアリングとコミュニケーション	適切な看護実践
実習前オリエンテーション	7/4(月)	実習概要の説明、準備するものの説明、事前課題:地域探索計画書作成の提示、各実習病院のガイドラインの確認と誓約書の作成	
実習内容	7/25(月)	午前:実習オリエンテーション(学内)、午後:病院オリエンテーション(臨地)	
	7/26(火) 7/27(水)	地域連携・入退院支援部署での実習(臨地)	
	7/28(木)	午前:地域探索、午後:地域探索結果の共有・発表会の準備(学内)	
	7/29(金)	午前:発表会(学内)、午後:面談・記録の整理	

3. 地域包括ケア実習2

特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護施設、児童発達支援施設、デイサービスセンターなどの10施設、24グループ編成で実施した。

1) 施設オリエンテーション／施設での見学、コミュニケーション

実習1日目の施設オリエンテーションでは、各施設の施設長や療育部長から、施設の概要・理念、施設の機能と役割、利用する方の傾向などの説明を受け、また、施設的环境やケアの実際を見学した。実習2～4日目は、利用者・看護師と行

動を共にし、利用者とのコミュニケーションの試みやスタッフと利用者とのコミュニケーションの見学、生活行動援助の見学、プログラムへの参加を経験した。この実習は、あらゆるライフスパン、あらゆる健康状態にある人々とコミュニケーションを図り、個々の生命体がもつ力を最大限に発揮する環境が、どのようにして整えられているかを理解することをねらいとしており、学生は、施設を利用している人々がどのような健康状態にあり、どのようなケアニーズを持ち、社会資源によりどのように健康や暮らしが保障されているのかについて学修できた。対象者の選定や支援の

表3. 地域包括ケア実習2の概要

授業科目	開講期		単位数(時間数)	必修・選択
地域包括ケア実習2	1年次後期(第4ターム)		1(30)	必修
概要	医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される体制について理解する。また、利用者との関わりを通して、どのようなケアニーズがあり、地域包括ケアシステムによりどのように暮らしが保障されているのかについて考察する。			
到達目標	1. 実習施設と地域包括ケアシステムとの関連について説明することができる 1) 実習施設の目的、機能、役割について述べるができる 2) 実習施設と地域の医療・介護・予防・住まい・生活支援がどのように一体化されて提供されているのかについて述べるができる 2. 実習施設を利用する人々とコミュニケーションを試みて、人々の暮らしや健康状態、ケアニーズを把握することができる 1) 実習施設を利用する人々のライフスパン、状態、状況に応じてコミュニケーションを図ることができる 2) 実習施設を利用する人々に対して礼節ある態度(時間・挨拶・言葉使い)をとることができる 3) 実習施設を利用する人々の暮らしや健康状態、ケアニーズについて述べるができる 3. 人々が活用している社会資源と地域包括ケアシステムにより、人々の暮らしがどのように保障されているのかについて説明することができる 1) 各社会資源の種類と内容について述べるができる 2) 関わっている各職種と役割について述べるができる 3) 実習施設を利用する人々が活用している社会資源と、人々の暮らし、健康との関連について述べるができる 4) 人々の暮らしが、社会資源と地域包括ケアシステムにより、どのように保障されているのかについて述べるができる			
DPとの対応	知をいつくしむ力		人をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力	探求力と生涯学習能力	全人的人間理解	命をいつくしむ力
			職業倫理と人権擁護	○
			適切な看護実践	○
実習前オリエンテーション1	12/21(水)	実習概要の説明、準備するもの説明		
実習前オリエンテーション2	1/18(水)	各実習施設のガイドラインの確認と誓約書の作成、各実習施設の実習方法・取り決め事項の確認		
実習内容	1/23(月)	午前:実習オリエンテーション(学内)、午後:病院オリエンテーション(臨地)		
	1/24(火) 1/25(水)	各部署での実習		
	1/26(木)	午前:各部署での実習、午後:グループワーク・発表会の準備(学内)		
	1/27(金)	午前:発表会(学内)、午後:面談・記録の整理		

場に学生が同席することの対象者への説明と同意は、各部署の担当者によって調整がなされた。また、医療ソーシャルワーカーや作業療法士の講話を聴講し、学生は、人々の暮らしに関わる各職種と役割、地域での暮らしを送るためにはどのようなサービスがあれば可能であるかについて理解できた。

コミュニケーションおよび生活行動の見学、プログラムへの参加は、利用者の生活に支障がなく、かつ学生の学修が深まるように各施設と詳細に調整し、1～2時間ごともしくは午前・午後に学生が入れ替わるローテーション制とした。実習以外の学生は、施設を利用している人々の健康や暮らしを保障する社会資源の実際について理解したことについて整理し、また、あらゆるライフスパン、健康状態にある人々に応じたコミュニケーションの工夫について検討した。

なお、「地域包括ケア論演習」において、各実習施設の目的、機能、根拠法、利用条件、関わる職種について調べたうえで、本実習に臨んでいる。

2) 振り返り

各部署での実習終了後、およそ30分間の振り返りの時間を設けた。振り返りの主なテーマは、「どのような支援により利用者の暮らしは保障されているのかについて理解したこと」「健康と生活を守るために多職種が連携していること」「非言語的コミュニケーションから得ていること」などである。司会進行は全て学生が行い、振り返りに参加した施設長や各部署の担当者から、学生の発表に対する助言や各職種の視点、意図などの助言を得た。

3) 全体共有（発表会）

実習5日目は、4日間の学びを共有する発表会を行った。発表のテーマは「地域に密着した支援－自分らしく過ごせるように－」「ケアニーズと地域包括ケアシステム」「利用者が安心・安全にデイサービスを利用できる工夫」など学生が決めたテーマであり、ケアニーズを持つ人々と地域包括ケアシステムの理解を深めた。

IV. 今後の課題

新カリキュラムとなり初めての実習の取り組みについて報告したが、今年度の実習方法および内容については評価途中で十分に検討できていない。学生の実習記録内容の分析や実習病院・施設との共有を通して評価し、次年度に向けた必要がある。

評価の途中ではあるが、現時点では下記のこと
が主な検討課題であると考えている。

1. 各実習前オリエンテーションの時期と内容を検討する。2. 「人間と生活行動1－コミュニケーションすること－」「生活行動逸脱看護1」「生活行動看護演習1」(全て1年前期第2ターム)と繋がりを持たせ、あらゆるライフスパン、あらゆる健康状態にある人々とのコミュニケーション、また、コミュニケーションすることが逸脱した状態にある場合における生活への影響と看護について学修を深める。3. 「地域包括ケア実習2」に繋がる「地域包括ケア論演習（1年次後記第3ターム）」を展開する。4. 各実習の下位目標と実習記録を洗練する。

VI. 謝辞

実習施設関係者の皆さまのご協力により、実習を展開することができました。本実習にご理解とご協力をいただきました実習施設関係者の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

利益相反

本研究に関する利益相反はない。

文献

井上深幸, 田口豊江, 中島優子他. (2023). 生命と生活をつなぐ看護モデルへの転換, 看護展望, 48(3), メヂカルフレンド社.